

令和2年第1回定例会（2月議会） 産業観光委員会・分科会 提出資料

令和2年 2月26日
観光文化スポーツ部

【当初予算関連】

観 光 戦 略 課	観光文化スポーツ部 令和2年度の主な施策の概要	-----	1
	あきたびじょんブランド化推進事業について	-----	2
	宿泊施設経営革新支援事業について	-----	4
	福岡合同事務所移転事業について	-----	6
	観光施設魅力向上事業について	-----	8
観 光 振 興 課	秋田の観光宣伝力強化事業について	-----	9
	東北デスティネーションキャンペーン推進事業について	---	12
	重点市場におけるF I T誘客プロモーション事業 について	-----	13
	F I Tに対応したキラーコンテンツ整備事業について	-----	16
	広域観光連携誘客促進事業について	-----	18
	東京オリ・パラを契機とした誘客促進事業について	-----	19
	I C Tを活用した訪日外国人受入態勢整備事業について	---	21
	レンタカーを活用した県内周遊促進事業について	-----	23
秋田うまいもの販売課	「世界へ羽ばたけ！秋田の食」輸出・誘客促進事業 について	-----	24
	発酵の国あきた魅力発信事業について	-----	26
	あきた食品産業活性化対策事業について	-----	28

交 通 政 策 課	奥羽・羽越新幹線整備促進事業について	29
	秋田新幹線機能向上調査等事業について	32
	地域公共交通の維持・確保対策関連予算について	34
	秋田内陸縦貫鉄道関連予算について	37
	由利高原鉄道関連予算について	39
	秋田犬の里魅力アップ促進事業について	41
文 化 振 興 課	秋田の伝統芸能魅力発信事業について	42
	あきた芸術劇場整備事業について	43
	あきた芸術劇場開館準備事業について	45
ス ポ ー ツ 振 興 課	スポーツ王国創成事業について	47
	県有体育施設整備・改修事業について	49
	2020プロジェクト推進事業について	51
	東京2020オリンピック聖火リレー開催事業について ---	52
	第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会開催事業	53
	について	
	第28回日・韓・中ジュニア交流競技会開催事業	54
	について	

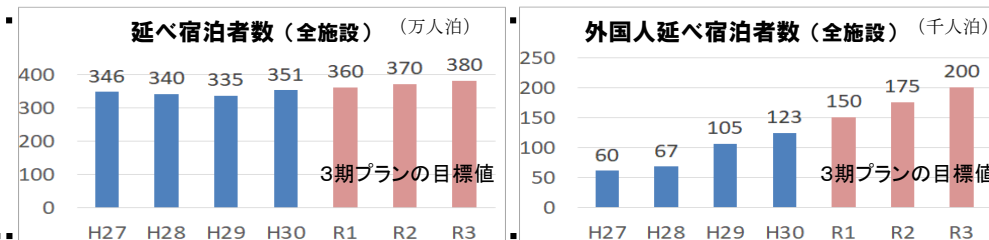
観光文化スポーツ部 令和2年度の主な施策の概要

～ 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略の推進 ～

観光文化スポーツ部

現状認識

- 本県の延べ宿泊者数は平成30年から増加に転じ、外国人延べ宿泊者もこの3年で倍以上に増加
- 東京オリ・パラ開催により日本に注目が集まる中で、本県の魅力向上を図るとともに、認知度を高めていくことが重要
- 宿泊者が増加に転じた流れを一層加速させるため、観光と食、文化・スポーツ、交通を組み合わせた総合的な取組が必要



食の魅力アップと発酵ツーリズムの推進

方向性：本県ならではの資源を生かした食品産業の振興

◆ 発酵ツーリズムの取組強化

- ⑧ 「あきた発酵ツーリズム」の取組の全県への展開と発酵の魅力発信に向けた「発酵マイスター」の育成やマスメディアを活用した体験ツアーによる誘客促進



◆ 食品産業の活性化に向けた新たな取組

- ⑧ 規格外枝豆を活用した粉末製造等の新分野への取組や中食・外食等の販路開拓への支援



2020年東京オリ・パラの開催を契機とした更なる交流人口の拡大

方向性：東京オリ・パラの開催を好機と捉え、本県の認知度向上と本県が次の旅行先となるための取組の推進

◆ 「東北ハウス」を拠点とした本県認知度の向上

- ⑧ 五輪期間中、高輪ゲートウェイ駅前に設置する「東北ハウス」における本県情報の発信
- ・東北ハウスと連動したアンテナショップ「あきた美彩館」での情報発信の強化

◆ オリンピック聖火リレーや文化イベント等を活用した魅力発信

- ・6月9日・10日に県内14市町村において聖火リレーを実施し、県民の機運醸成を図るとともに、国内外に本県の魅力を発信
- ・「東京キャラバン2020」等の文化イベントにおいて、本県の伝統文化を発信

◆ 事前合宿の受入れと交流の推進

- ・海外代表チームの事前合宿の受入れや地域との交流活動の推進

◆ 重点市場（台湾・中国・韓国・タイ）からの誘客の促進

- ・重点市場における秋田泊旅行商品の造成促進を図るとともに、SNS等の活用により本県の魅力を発信するほか、台湾からの定期便の誘致を推進

◆ ビッグデータ等を生かした情報発信

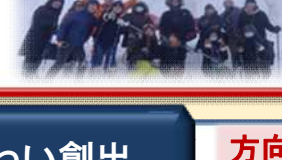
- ⑧ デジタルマーケティングを活用して収集したデータに基づき、ターゲットにピンポイントで“旅マエ”情報を発信し、本県への旅行機運を醸成

◆ 東北デスティネーションキャンペーンに向けたプロモーションの展開

- ・JRグループと連携した令和3年4月からの大型観光キャンペーンに向けたPR強化と地域の主体的な取組の促進による受入態勢の充実

◆ 冬季誘客の促進

- ・交通事業者やオンライン旅行会社等と連携した本県ならではの冬季の魅力発信



ICTの活用等による受入環境の充実

方向性：観光客の満足度向上に向けた取組の推進

◆ ICTの活用による情報提供

- ・外国人旅行者がストレスフリーの快適な旅行を実現するため“旅ナカ”情報として、GPS連動音声ガイド等を活用した観光案内やプッシュ配信による観光情報の発信



◆ 二次アクセスの充実・強化

- ⑧ 県内の主要駅や空港など交通結節点からの移動が容易なレンタカーを活用した観光モデルコースの紹介等による県内周遊の促進

◆ 多様なニーズに対応できる個性豊かな宿泊施設づくり

- ・一人旅やペット連れ等の多様化する旅行ニーズなどに対応した県内宿泊施設の施設改修への支援

交通基盤の強化

方向性：広域交通の充実と地域交通の確保に向けた取組の推進

◆ 秋田新幹線トンネル整備構想の早期実現

- ・経済波及効果に係る調査を踏まえ、国やJR東日本に対する要望活動や、県民等の機運醸成を図るシンポジウムの実施

◆ 広域交通ネットワークの拡充に向けた取組

- ・LCCを含めた新規路線開設や増便に向けて、航空会社の動向等を踏まえた実効性のある誘致活動の展開

◆ 新たな移動サービスの活用に向けた取組

- ⑧ 地域公共交通の利便性向上や課題への対応を図るため、Ma a S等の導入に係る研究会を開催するほか、新たな移動サービスの導入に向けた市町村等の取組を支援

Ma a S：複数の交通機関の検索・予約・決済を個人の端末から一括して提供するサービスの総称



文化・スポーツによる賑わい創出

方向性：文化・スポーツによる地域の活性化に向けた取組の推進

◆ 「あきた芸術劇場」の整備

- ・令和4年3月（予定）の開館に向けた施設整備の推進
- ⑧ 指定管理者の指定や愛称の公募を行うほか、県民の機運醸成を図るプレ事業などの実施

◆ 冬季国体の成功に向けた取組

- ⑧ 令和3年、4年の2年連続で鹿角市において開催される冬季国体の成功に向けた取組の推進

◆ 国際スポーツイベントの開催

- ⑧ 8月に開催される日・韓・中ジュニア交流競技会を通じた競技力の向上と青少年スポーツ交流の促進



あきたびじょんブランド化推進事業について

観光戦略課

1 目 的

本県が目指す「高質な田舎」の実現に向けて、秋田の統一したイメージを表す「あきたびじょん」のロゴを生かしながら、秋田の新たな魅力を発掘し様々な媒体を活用した情報発信を展開することで、更なるイメージの向上を図る。

2 概 要

(1) 各種PRの総合プロデュース

6, 704千円

統一感のあるイメージで秋田の魅力を発信するため、新たに作成した「あきたびじょんポスター」を活用した情報発信等を行う。

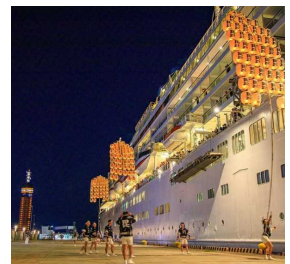
(2) ソーシャルメディアによる情報の交流

1, 106千円

若年層の県内周遊を促すため、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどの活用により、秋田の旬の情報や魅力を発信する。

- ・季節やテーマに応じたInstagramフォトコンテストの開催
など

【令和元年9月MVP受賞作 秋田港クルーズ船】



(3) 県ゆかりの人とのネットワークの活用

18, 961千円

本県の魅力を全国にアピールするため、秋田ゆかりの大使等を活用したテレビ番組やガイドブック等を制作する。

- ・「あきた音楽大使」の高橋優氏が県内を紹介する「秋田キャラバンガイド」の発行 など

【秋田キャラバンガイド2019】



(4) ウェブマガジンの制作・運用

11, 014千円

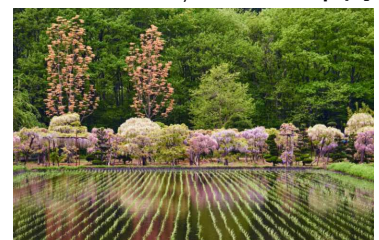
新たな情報による人の流れを創出するため、インターネットを活用し、それぞれの地域の足元にある優れたコンテンツをインタビューや魅力的な画像により紹介する。

(5) 「秋田の眠れる魅力」発見・発信

1, 782千円

本県の話題性を高め、一層のイメージ向上を図るため、これまでの「あきたびじょん」の取組により蓄積された情報等を活用し、メディアに対して積極的な情報発信を行うことで、本県がテレビ番組等に取り上げられる機会の拡大を図る。

【大館市 十ノ瀬藤ノ郷】



- ・県内の魅力的な素材を収集したウェブサイトの充実
- ・県内ロケ支援ネットワークと連携した制作サイドへの企画提案
- ・ロケ誘致に向けた研修会の開催 など

3 予算額		39,567千円
(1) 各種PRの総合プロデュース		6,704千円
内 訳	・旅 費 1,613千円 ・需用費 238千円 ・役務費 61千円 ・委託料 3,667千円 ・使用料及び賃借料 1,125千円	
(2) ソーシャルメディアによる情報の交流		1,106千円
内 訳	・報償費 190千円 ・旅 費 113千円 ・役務費 249千円 ・委託料 554千円	
(3) 県ゆかりの人とのネットワークの活用		18,961千円
内 訳	・報償費 25千円 ・旅 費 1,021千円 ・役務費 315千円 ・委託料 17,600千円	
(4) ウェブマガジンの制作・運用		11,014千円
内 訳	・委託料 11,014千円	
(5) 「秋田の眠れる魅力」発見・発信		1,782千円
内 訳	・報償費 60千円 ・旅 費 733千円 ・需用費 187千円 ・委託料 667千円 ・使用料及び賃借料 35千円 ・負担金 100千円	

宿泊施設経営革新支援事業について

観光戦略課

1 目 的

本県観光の課題とされる宿泊施設の充実強化に向け、地域の拠点となる魅力的な施設づくりや今後マーケットの拡大が見込まれる分野等に対応した施設整備を支援するとともに、昨今の従業員不足に対応し、生産性向上に向けた設備改修への支援や事業者と連携した対応策の検討など、総合的なサポートを行う。

2 概 要

(1) 地域観光集客拠点構築支援事業費補助金 40,052千円

地域の拠点として国内外から新たな観光客を呼び込むことができる魅力的な宿泊施設づくりを促進するため、金融機関の目利きを生かしながら、宿泊施設の改修事業に対して支援する。

- ・補助条件：総務省の地域経済循環創造事業交付金に採択されること
- ・補 助 率：補助対象事業費の1／2以内
- ・限度額等：40,000千円×1件

(2) 宿泊施設経営革新支援事業費補助金 11,266千円

ペット連れや一人旅、ワーケーションなど今後マーケットの拡大が見込まれる分野に係る新たな設備投資や、従業員不足に対応したICTの活用による生産性向上などに対して支援する。

- ・対象経費：施設整備費、機械装置費、備品費等
- ・補 助 率：補助対象事業費の1／2以内
- ・限度額等：(施設整備枠) 5,000千円×2件 (施設・設備等)
(業務改善枠) 1,000千円×1件 (システム導入、備品購入等)

(3) 宿泊業における従業員不足対策事業 282千円

宿泊施設の深刻な従業員不足に対応するため、ICTの活用等による生産性向上や外国人材の受入態勢の整備に向け、事業者や業界団体を対象に研修会を開催し、課題の整理や今後の対応策等について情報の共有を図る。

- ・時 期：5月 (予定)

3 予算額 51,600千円

(1) 地域観光集客拠点構築支援事業費補助金 40,052千円

内 訳	・旅 費	15千円
	・需用費	22千円
	・役務費	3千円
	・使用料及び賃借料	12千円
	・負担金補助及び交付金	40,000千円

(2) 宿泊施設経営革新支援事業費補助金 11,266千円

内 訳	・報償費	40千円
	・旅 費	143千円
	・需用費	60千円
	・役務費	11千円
	・使用料及び賃借料	12千円
	・負担金補助及び交付金	11,000千円

(3) 宿泊業における従業員不足対策事業 282千円

内 訳	・報償費	100千円
	・旅 費	114千円
	・需用費	60千円
	・使用料及び賃借料	8千円

福岡合同事務所移転事業について【新規】

観光戦略課

1 目 的

本県及び青森県、岩手県が共同で運営する福岡合同事務所及びアンテナショップ「みちのく夢プラザ」について、現在入居しているビルの建て替えに伴い移転する必要が生じたことから、令和3年4月の移転開設に向け内装工事等を行う。

2 概 要

(1) 施設の概要

- ・設 置 日：平成11年2月5日
- ・所 在 地：福岡市中央区天神2-8-34住友生命福岡ビル内
- ・施設面積：497.39㎡（約150坪）
うち観光案内及びアンテナショップ面積 347.39㎡（約105坪）

(2) 事業内容

福岡合同事務所及びアンテナショップの移転にかかる設計費、内装工事費、移転先敷金等

(3) 移転の基本方針

- ・移転候補地は福岡市天神地区周辺を基本とし、現状の固定経費（敷金、賃料等）を超えない範囲で検討する。
- ・事務所及びアンテナショップの機能は、現状と同等程度の維持を目指す。

3 スケジュール（予定）

区分	令和元年		令和2年								令和3年			
	11月	12月	1月	～	5月	～	9月	10月	～	12月	1月	2月	3月	4月
移転候補先探し														
移転先決定														
移転工事設計・工事施工														
レイアウト作成及び 移転工事設計業務														
設備、内装等工事														
事務所移転（引越し作業）														

新事務所移転開設

4 移転に係る収入及び費用の内訳

令和2年度及び3年度は本県が所長県となるため、設計委託や移転工事等は本県が発注・施工する。

・負担割合： 各県 1／3

収入 (単位：千円)

業務名	総 額	うち秋田県分	うち青森県分	うち岩手県分
移転補償費	65,889	21,963	21,963	21,963
敷金返還金	61,416	20,472	20,472	20,472
合計	127,305	42,435	42,435	42,435

・現事務所に係る移転補償費及び敷金返還金は各県に対し支払われる

費用 (単位：千円)

業務名	総 額	うち秋田県分	うち青森県分	うち岩手県分
新事務所入居敷金	61,416	20,472	20,472	20,472
新事務所家賃等	34,236	11,412	11,412	11,412
設計委託費	5,225	1,743	1,741	1,741
移転工事費等	98,822	32,942	32,940	32,940
合計	199,699	66,569	66,565	66,565

・新事務所の入居敷金、家賃等は各県がそれぞれ支払う

・移転に係る設計、工事費等は青森、岩手県より負担金を徴収し本県が一括で支払う

※ 部分が県の歳出予算計上額（135,931千円）

※ 部分が県の歳入予算計上額のうち諸収入分（111,797千円）

(参考) 実質負担額 (単位：千円)

	総 額	うち秋田県分	うち青森県分	うち岩手県分
費用－収入	72,394	24,134	24,130	24,130

・移転に係る本県の実質負担額は24,134千円である

5 予算額

135,931千円

内 訳

・旅 費	913千円
・需用費	68千円
・役務費	7,641千円
・委託料	5,225千円
・使用料及び賃借料	30,898千円
・工事請負費	91,186千円

観光施設魅力向上事業について

観光戦略課

1 目 的

県有観光施設において、利用者の安全・安心の確保と満足度の向上等を図るため、施設や設備の改修を行う。

2 概 要

(単位：千円)

施 設 名	工 事 内 容	予算額
男鹿水族館	・ 冷温水発生機実施設計	1, 8 6 9
	・ 電気室遮断機改修	5, 5 4 3
田沢湖スキー場	・ 銀嶺クワッドリフト通信ケーブル更新	2 9, 2 6 0
	・ 黒森山リフト油圧シリンダー更新	3, 8 5 0
	・ かもしかクワッドリフト握索装置オーバーホール	1 6, 3 9 0
秋田ふるさと村	・ 中央監視装置更新	7 4, 4 7 7
	・ ドーム劇場電動式観覧席制御盤修繕	1 0, 9 4 9
十和田ホテル	・ エレベーター制御盤交換	1 4, 5 8 2
フォレストタ鳥海	・ ろ過装置制御盤	2 8, 8 2 9
	・ ろ過装置設備改修	2 0, 3 4 1

3 予算額

2 0 6, 0 9 0千円

内 訳	・ 需用費	6 5, 9 9 2千円
	・ 委託料	6, 4 1 4千円
	・ 工事請負費	1 3 3, 6 8 4千円

秋田の観光宣伝力強化事業について

観光振興課

1 目 的

首都圏等からの更なる誘客を図るため、民間事業者や他県と連携しながら、テーマやターゲットを絞り込んだプロモーション等を展開する。

2 概 要

(1) 「秋田犬の里」集中プロモーション事業（地方創生推進交付金） 43,270千円

① 交通事業者と連携した冬季誘客促進事業 14,770千円

多様な交通事業者と連携し、冬季誘客等を促進する。

- ・連携企業：航空会社、フェリー会社 等
- ・実施時期：令和2年9月～3年3月
- ・実施内容：交通事業者のウェブサイトやSNS等を活用した情報発信
交通事業者連携による旅行商品の企画・販売の促進 等

② OTA等を活用した誘客対策事業 3,649千円

OTA旅行予約サイトへ本県の冬季観光特集ページを掲載する。

- ・実施時期：令和2年9月～3年3月

【参考】OTA（Online Travel Agentの略）

インターネット上で取引を行う旅行会社のこと。

③ 大規模イベント等活用観光PR事業 9,998千円

ア 「ツーリズムEXPOジャパン」への出展

- ・実施時期：令和2年9月10日（木）～12日（土）
- ・実施場所：東京ビッグサイト（東京都）

イ 「あきた産直市」における観光PR

- ・実施時期：令和2年12月
- ・実施場所：JR大宮駅

④ 隣県からの誘客促進強化事業 6,440千円

ア 隣県のショッピングモール等で観光PRイベントの実施

- ・実施時期：令和2年9月～3年2月
- ・実施場所：弘前市、盛岡市、仙台市、山形県庄内地方

イ 観光パンフレットの制作

- ・発行部数：5万5千部

⑤ 秋田犬ふれあい交流事業

8, 413千円

国内外で人気の高い「秋田犬」を、観光客が多く訪れる市街地や主要ターミナル等で展示する。

- ・実施時期：令和2年4月～3年3月
- ・実施場所：エリアなかいち、秋田駅、秋田港 等

(2) デジタルプロモーション事業【新規】(地方創生推進交付金)

7, 000千円

ウェブサイト上での観光情報の検索データ等をもとに、ターゲットを絞り込んだ広告配信を行うとともに、これらのデジタル上の閲覧履歴情報を蓄積・分析し、継続的かつ効果的なデジタルプロモーションを展開する。

- ・実施時期：令和2年9月～3年3月
- ・実施内容：グーグルやヤフー等の検索エンジンを活用した検索連動型広告
フェイスブック等のSNSを活用したディスプレイ広告 等

(3) 教育旅行誘致事業

786千円

北海道や首都圏において、(一社)東北観光推進機構等が主催する教育旅行誘致セミナーに参加して本県への教育旅行をPRするとともに、地域や民間団体と連携して学校や旅行会社等を直接訪問するなどの誘致活動を行う。

(4) 世界遺産を活用した誘客促進事業

1, 111千円

世界自然遺産を有する1都1道3県が連携してPRを行うとともに、商談会等を開催し、旅行商品の造成を促進する。

- ・共通のウェブサイトによる情報発信
- ・海外向けのインターネット広告の展開
- ・首都圏等における旅行エージェントを対象とした商談会等の開催 等

(5) 「秋田の観光創生推進会議」誘客推進事業

25, 000千円

行政と民間団体等が一体となった観光プロモーションや受入態勢の整備など、「秋田の観光創生推進会議」が実施する事業に要する経費の一部を負担する。

【参考】秋田の観光創生推進会議

- ・設 立：平成27年4月24日
- ・会 員：96団体（県、市町村、観光関係団体、経済団体、マスコミ等）
- ・事業期間：平成27年度～令和2年度
- ・事業費：約50, 000千円／年間

※負担割合：県1／2、市町村1／4、各種団体・民間1／4

3 予算額		77, 167千円
(1)「秋田犬の里」集中プロモーション事業		43, 270千円
内 訳	・旅 費 901千円 ・需用費 448千円 ・役務費 361千円 ・委託料 41, 560千円	
(2) デジタルプロモーション事業		7, 000千円
内 訳	・需用費 100千円 ・委託料 6, 900千円	
(3) 教育旅行誘致事業		786千円
内 訳	・旅 費 435千円 ・需用費 115千円 ・役務費 6千円 ・委託料 220千円 ・使用料及び賃借料 10千円	
(4) 世界遺産を活用した誘客促進事業		1, 111千円
内 訳	・旅 費 435千円 ・役務費 60千円 ・委託料 616千円	
(5)「秋田の観光創生推進会議」誘客推進事業		25, 000千円
		(負担金補助及び交付金)

東北デスティネーションキャンペーン推進事業について

観光振興課

1 目 的

令和3年4月から9月の6か月間にわたり行われる「東北デスティネーションキャンペーン（以下「東北DC」という。）」の成功に向けて、東北各県及びJRグループ等と連携してプロモーションを展開する。

2 概 要

東北各県及び仙台市とともに、「東北DC推進協議会（以下「東北DC協」という。）」が実施する事業に要する経費の一部を負担する。

【主な事業内容】

- ・インターネット等のデジタル媒体を活用したプロモーションの展開
- ・航空事業者等の交通事業者と連携したキャンペーンのPR
- ・テーマやストーリー性を持った広域周遊ルートの企画及び旅行商品造成の促進
- ・全国宣伝販売促進会議及びエクスカッション（旅行会社等による視察・体験）の実施

〈東北DC協について〉

- ・設 立：令和元年7月11日
- ・構成団体：東北6県、仙台市、JR東日本各支社、各県観光関係協議会等
- ・事業期間：令和元年度～令和3年度
- ・事務局：一般社団法人東北観光推進機構（千円）
- ・事業費：

	元年度	2年度	3年度	合計
総事業費	15,050	409,150	275,800	700,000
各県・仙台市負担	2,150	58,450	39,400	100,000
- ・今後の主なスケジュール
 - 令和2年6月 2日：全国宣伝販売促進会議〔開催地：仙台市〕
（国内外の旅行会社やメディアに対するPR等）
 - 令和2年6月3～4日：エクスカッション
 - 令和2年7月～ ：国内外向け情報発信（各種ウェブサイト・SNS等）
 - 令和3年4月～9月：東北DC開催

3 予算額

59,585千円

内 訳	・旅費等	985千円
	・需用費	100千円
	・役務費	50千円
	・負担金	58,450千円

重点市場におけるF I T誘客プロモーション事業について

観光振興課

1 目 的

外国人旅行者の更なる誘客を図るため、各重点市場の特性に応じた情報発信等のプロモーションを展開するとともに、旅行会社の招請や商談会の開催等により、秋田泊旅行商品の造成及び販売を促進する。

2 概 要

(1) 台湾誘客促進事業 80, 192千円

① 秋田泊旅行商品造成 66, 933千円

秋田空港への直行チャーター便や県外空港発着便を利用した、秋田泊旅行商品の造成・販売の拡大を図る。

- ・航空会社と連携した旅行会社の招請やトップセールス・現地商談会の実施
- ・直行チャーター便や県外空港発着の旅行商品の造成・販売支援
- ・現地コーディネーターによる情報収集、観光PR、セールス活動等

② F I T向け情報発信 13, 259千円

SNS等を活用した本県の魅力発信と、旅行博等への出展を通じた本県の認知度アップに向けたPRにより、F I T（外国人個人旅行者）の誘客促進を図る。

- ・台湾向け公式フェイスブックやインフルエンサー招請による情報発信
- ・台北国際旅行博等への出展によるプロモーション

(2) 中国・香港誘客促進事業 47, 676千円

① 秋田泊旅行商品造成 39, 456千円

O T Aを活用したプロモーションの展開により、本県の認知度向上及び誘客拡大を図るとともに、旅行会社の招請等により、秋田泊旅行商品の造成・販売の拡大を図る。

- ・航空会社と連携した旅行会社の招請、及び大連市の旅行会社の招請
- ・O T Aを活用した秋田泊旅行商品の造成販売及び情報発信
- ・現地コーディネーターによる情報収集、観光PR、セールス活動等

② F I T向け情報発信 8, 220千円

中国で訴求効果が高いSNSにより、タイムリーな観光情報等を発信するほか、国際旅行博等に出展し、本県の認知度向上を図る。

- ・中国向け公式ウェイボー、ウィーチャットでの情報発信
- ・国際旅行博等への出展によるプロモーション

(3) 韓国誘客促進事業 15, 296千円

① 秋田泊旅行商品造成 7, 690千円

本県への旅行需要の高い冬季を中心に、秋田空港への直行チャーター便や県外空港発着便を利用した秋田泊旅行商品の造成・販売の拡大を図る。

- ・スキーや温泉等の魅力あるテーマ型秋田泊旅行商品の造成・販売支援

・現地コーディネーターによる情報収集、観光PR、セールス活動等

② FIT向け情報発信 7,606千円

訪日・訪東北を検討しているリピーターやFITをターゲットに、韓国で需要の高いスキーや温泉、ヒーリング（癒し）等をテーマとした秋田の魅力を、SNSやセミナー等の活用により情報発信を行う。

- ・韓国向け公式ブログやSNSを活用した情報発信
- ・県内スキー場と連携した冬季セミナーの開催

(4) タイ誘客促進事業 29,617千円

① 秋田泊旅行商品造成 19,984千円

旅行会社へのセールスや情報発信により、本県の認知度向上及び誘客拡大を図るとともに、旅行会社の招請等により、秋田泊旅行商品の造成・販売の拡大につなげる。

- ・旅行会社や教育旅行関係者の招請による情報発信
- ・トップセールス、旅行会社等に対するセールス等

② FIT向け情報発信 9,633千円

インフルエンサー等を活用した観光情報の発信を通じて、本県への旅行意欲を喚起する。

- ・インフルエンサーやメディアの招請
- ・留学生等の国内在住タイ人による口コミサイト等への投稿促進

3 予算額 172,781千円

(1) 台湾誘客促進事業 80,192千円

内 訳	・報酬	1,803千円
	・職員手当等	214千円
	・共済費	338千円
	・報償費	198千円
	・旅費	4,701千円
	・需用費	750千円
	・役務費	1,400千円
	・委託料	70,763千円
	・使用料及び賃借料	25千円

(2) 中国・香港誘客促進事業 47,676千円

内 訳	・報償費	140千円
	・旅費	5,000千円
	・需用費	400千円
	・役務費	400千円
	・委託料	41,696千円
	・使用料及び賃借料	40千円

(3) 韓国誘客促進事業 15,296千円

内 訳	・ 報償費	30千円
	・ 旅 費	2,118千円
	・ 需用費	100千円
	・ 役務費	100千円
	・ 委託料	12,908千円
	・ 使用料及び賃借料	40千円

(4) タイ誘客促進事業 29,617千円

内 訳	・ 報償費	110千円
	・ 旅 費	4,074千円
	・ 需用費	300千円
	・ 役務費	300千円
	・ 委託料	24,833千円

※事業の一部に東北観光復興対策交付金及び地方創生推進交付金を充当する。

F I Tに対応したキラーコンテンツ整備事業について
（東北観光復興対策交付金）

観光振興課

1 目 的

外国人に人気のあるサイクリングやスキーを本県ならではのキラーコンテンツとして整備し、その魅力を発信することにより、F I T（外国人個人旅行者）の誘客拡大につなげる。

2 概 要

（１）A K I T A里山サイクリング推進事業 **8, 8 5 7 千円**

① **里山サイクリングフォローアップ事業** **2, 5 8 6 千円**

サイクリングコースの拠点となる最寄りの「道の駅」等において、サイクルラックやフラッグの設置などの環境整備を行うほか、サイクリングコースの情報を提供する。

② **里山サイクリング魅力発信事業** **6, 2 7 1 千円**

県内サイクリングコースの魅力を伝えるガイドマップを作成するとともに、ウェブサイトでの情報発信を行うほか、台湾でのサイクリングイベントでPRを行う。

（２）A K I T Aスノーリゾート推進事業 **7, 0 3 2 千円**

① **周遊ルート造成事業** **3, 5 1 2 千円**

スノーリゾートを長期で周遊する豪州などをターゲットに、県内スキー場及び周辺観光地等を巡る周遊モデルコースを作成し、ウェブサイト等で情報を発信する。

② **海外旅行博等プロモーション事業** **3, 5 2 0 千円**

日本へのスキー客が増加している豪州や、北京冬季オリンピックに向けてスキー人口が急増している中国をターゲットに、東北観光推進機構等と連携して、現地で開催されるスキー博に出展するとともに、現地旅行会社を訪問し県内スキー場等をPRする。

・出展スキー博：Snow Travel Expo（豪州：５月）

World Winter Sports Expo（中国：９月）

3 予算額 **1 5, 8 8 9 千円**

（１）A K I T A里山サイクリング推進事業 **8, 8 5 7 千円**

内 訳	{ ・旅 費 ・需用費 ・役務費 ・委託料 6 1 8 千円 1 0 0 千円 1 0 0 千円 8, 0 3 9 千円
-----	---

(2) AKITAスノーリゾート推進事業

7,032千円

内 訳	・旅 費	847千円
	・需用費	100千円
	・役務費	310千円
	・委託料	5,775千円

**広域観光連携誘客促進事業について
(東北観光復興対策交付金)**

観光振興課

1 目 的

東北六県及び仙台市が連携して、外国人旅行者への多様なプロモーションを行うほか、東北エリアの二次交通情報を発信することにより、東北への誘客と広域周遊を促進する。

2 概 要

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした総合プロモーション

45,680千円

東京オリ・パラを契機に、東北の魅力を発信するデジタルプロモーションを行うほか、アジア圏の旅行会社等の招請による商品造成支援やメディア等を活用した情報発信を実施する。

- ・ビッグデータを活用した動画広告の配信、口コミサイトの活用
- ・旅行会社等の招請による東北旅行商品造成の支援
- ・インフルエンサーやメディアの招請、及びイベント開催による情報発信 等

(2) 海外富裕層旅行者の誘客促進

7,074千円

海外富裕層の誘客及び消費額の拡大を図るため、旅行商品の造成を支援するとともに、体験型プログラム造成など受入環境の整備を行う。

- ・富裕層向け旅行会社を対象とした招請、商談会への参加
- ・ワークショップでの体験型プログラムの造成や磨き上げ 等

(3) 東北各県知事等トップセールス

2,000千円

東北、新潟の各県及び仙台市の首長や観光・経済団体が一体となって、海外の政府関係者や観光関連団体トップに対し東北をPRすることにより、東北への誘客を図る。

(4) 東北広域での二次交通対策

5,074千円

東北の鉄道、バス、タクシーなどを組み合わせたルート検索や、それに対応するエリアパスなどの情報検索が可能なウェブサイトを充実させることにより域内の周遊促進を図るとともに、交通事業者向けセミナーを実施することで、外国人旅行者の受入態勢整備を促進する。

- ・ウェブサイトの交通情報の更新、広告配信
- ・交通事業者向けインバウンドセミナーの開催

3 予算額

59,828千円

内 訳	〔・旅 費	2,222千円
	・委託料	57,606千円〕

東京オリ・パラを契機とした誘客促進事業について【新規】

観光振興課

1 目 的

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、訪日外国人の東北への認知度向上と誘客拡大を図るため、東北地域が一体となって情報発信を行う拠点となる「東北ハウス」を設置するとともに、訪日外国人向けPRイベントへの出展やデジタルプロモーション等を展開する。

2 概 要

(1) 2020年東北・新潟の情報発信拠点「東北ハウス」設置事業 18,819千円

東北・新潟の様々な魅力を発信する拠点「東北ハウス」をJR東日本高輪ゲートウェイ駅前に設置する費用の一部を負担する。

【参考】東北ハウスの概要

東日本大震災の発生から10年目となる2020年、“復興五輪”を基本方針とする東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、全世界から注目が集まるこの機会に「支援に対する感謝」や「元気で安心な東北の姿」、「観光地“東北・新潟”の魅力」を発信する、期間限定のパビリオン。

主 催：「東北ハウス」実行委員会（委員長：東北経済連合会 会長）

※東経連・東北6県・新潟県・仙台市・東北六県商工会議所連合会等で構成
総事業費：4.3億円程度

※民間 2.8億円、自治体 1.5億円（8県市 各18,750千円）

事業期間：2020年7月18日（土）～8月9日（日）（23日間）

※サテライト会場は7月21日（火）～27日（月）、8月24日（月）～30日（日）

会 場：メイン会場はJR東日本高輪ゲートウェイ駅前の一部

サテライト会場は渋谷エキスポ（現・東急百貨店東横店）、
三井住友銀行東館ライジング・スクエア

内 容：①感謝ゾーン

東日本大震災からの復興の現状・復興支援への感謝等の発信

②交流ゾーン

東北・新潟の観光情報の発信・伝統文化の紹介・体験

・大型スクリーンでの迫力ある映像の上映

・伝統工芸品の展示及び製作体験

・日本酒の試飲や地場製品の試食体験

③明日へゾーン

東北・新潟の「明日」に向けた子どもたちや企業等の取組を紹介

(2) 2020年訪日外国人向け情報発信事業（東北観光復興対策交付金）

36,752千円

① 訪日外国人向け都内イベントでの集中プロモーション

7,312千円

東北ハウスで秋田を集中的にPRする「AKITA DAY」を開催するとともに、都内で開催される東京オリ・パラ関連イベントに出展し、観光プロモーションを実施する。

② 訪日外国人向けメディアを活用した情報発信

4,734千円

オリ・パラ期間中に都内各所に設置される訪日外国人旅行者向けのガイドブックに本県のモデルコース等を掲載し、旅ナカでの誘客促進を図る。

③ デジタルプロモーションによる広告配信

23,678千円

旅行関連のビッグデータ等を活用し、東北に関心のある層をターゲットとした広告配信を行い、本県の認知度向上と誘客促進を図る。

④ 東京都連携事業

1,028千円

東京都と東北6県等が連携し構築したウェブサイト「TOHOKU×TOKYO」やOTAを活用し、東京と東北双方の魅力を発信することにより誘客につなげる。

3 予算額

55,571千円

(1) 2020年東北・新潟の情報発信拠点「東北ハウス」設置事業

18,819千円

内 訳

・旅 費	69千円
・負担金	18,750千円

(2) 2020年訪日外国人向け情報発信事業

36,752千円

内 訳

・旅 費	1,448千円
・需用費	100千円
・役務費	100千円
・委託料	35,104千円

I C Tを活用した訪日外国人受入態勢整備事業について
(東北観光復興対策交付金)

観光振興課

1 目 的

外国人旅行者がストレスなくスムーズに県内を周遊できるよう、観光案内所等の対応力の向上や、I C Tを活用した多言語による観光案内の充実など、外国人旅行者の受入態勢の強化を図る。

2 概 要

(1) インバウンド対応力レベルアップ事業 13,606千円

外航クルーズ船の乗客向けに観光案内を行うほか、県内観光案内所や観光関係事業者の外国人旅行者への対応力の向上を図る。

- ・外航クルーズ船の乗客を対象とした臨時観光案内所の設置
- ・観光案内所スタッフを対象とした外国人旅行者対応力向上研修の実施
- ・宿泊施設等を対象としたI C Tの活用を推進するセミナーの実施 等

(2) I C Tを活用した周遊促進事業 17,451千円

G P SやQ Rコード等、I C Tを活用した多言語による観光情報の発信を強化する。

- ・G P Sを活用した観光地の多言語音声ガイドの実施
※対象地域：秋田駅周辺、伊勢堂岱遺跡等縄文遺跡群
- ・スマホアプリ「アキタノN A V I」のプッシュ型配信による街歩き観光の促進
- ・Q Rコードを活用した観光施設等の案内板の多言語化 等

3 予 算 額 31,057千円

(1) インバウンド対応力レベルアップ事業 13,606千円

内 訳	・旅 費	327千円
	・需用費	100千円
	・役務費	100千円
	・委託料	13,079千円

(2) ICTを活用した周遊促進事業

17,451千円

内 訳	・旅 費	38千円
	・需用費	100千円
	・役務費	100千円
	・委託料	17,213千円

レンタカーを活用した県内周遊促進事業について【新規】
(東北観光復興対策交付金)

観光振興課

1 目 的

レンタカーを利用するF I T（外国人個人旅行者）向けに、県内の観光スポットを巡るドライブマップを作成するとともに、モデルコースなどのお薦め情報を海外O T Aサイト等でP Rすることにより、レンタカー活用による県内周遊を促進する。

2 概 要

空港や主要駅など、交通結節点からの移動が容易なレンタカーを活用した県内周遊の促進を図る。

- ・モデルコース等を紹介する外国語版ドライブマップ（マップコード付き）の作成
- ・海外O T Aのサイト等への特設ページの設置（周遊モデルコースの紹介やレンタカー予約など）

【参考】マップコード

地図上の位置を簡単に特定できるコードナンバー。6桁～12桁の数字をカーナビに入力するだけで簡単に目的地設定を行うことができる。

3 予 算 額

(1) レンタカーを活用した県内周遊促進事業

10,247千円

内 訳	・旅 費	47千円
	・需用費	100千円
	・役務費	100千円
	・委託料	10,000千円

「世界へ羽ばたけ！秋田の食」輸出・誘客促進事業について
（地方創生推進交付金）

秋田うまいもの販売課

1 目 的

海外で物産展や商談会を開催するなど、食品事業者と連携しながら本県の食と観光を一体的に売り込むことにより県産品の輸出拡大を図る。

2 概 要

（１）輸出促進と観光ＰＲ事業 in 台湾 **５，２７４千円**

台湾の飲食店や百貨店で本県の観光ＰＲと併せた物産展などを開催し、県産食品の販路拡大を図る。

- ・フード台北への出展及びＡＢＣクッキングスクールを活用した県産食材の売込み
- ・百貨店で観光と食をテーマとした物産展の開催
- ・飲食店で県産食材を使ったメニューフェアの開催

（２）食の頂点パリ・ブランディング事業 **２，８６３千円**

食の情報発信力の高いパリで、レストランやバイヤーに県産品の売込みを図る。

- ・県産日本酒のＰＲ用ガイドブックの制作及びレストラン等へ配布
- ・県産品の輸入に意欲的な小売店バイヤーの招へい及び商談の実施

（３）秋田の食プロモーション事業 in タイ **２，７１１千円**

日本食の人気の高まっているタイにおいて、県産食材のプロモーションを行い、販路拡大につなげていく。

- ・バイヤー招へいによる商談の実施
- ・現地レストランでの県産食材メニュー試食会の開催
- ・バンコク駐在の本県金融機関を通じた県産品の販路開拓

（４）北東北三県・北海道ソウル事務所物産共同事業 **１，２１３千円**

４道県で共同設置している同事務所において共同プロモーションを実施する。

- ・輸入商品展示会への出展による県産品の販路開拓
- ・バイヤー招へいによる商談会の開催

（５）秋田県産品輸出事業 in 大連【新規】 **７，８４３千円**

本県と友好交流協定を締結した大連市において、現地展覧会への出展などのプロモーションを行い、中国への県産品の輸出拡大を図る。

- ・大連市自由貿易試験区への県産品の展示・P R
- ・大手食品輸入業者の招へい及び商談の実施
- ・2020大連日本商品展覧会への出展及び商談会の開催
- ・大連市における県産品プレゼン会の開催

3 予算額 19,904千円

(1) 輸出促進と観光P R事業 in 台湾 5,274千円

内 訳	・ 報償費	10千円
	・ 旅 費	650千円
	・ 需用費	110千円
	・ 役務費	101千円
	・ 委託料	4,365千円
	・ 使用料及び賃借料	38千円

(2) 食の頂点パリ・ブランディング事業 2,863千円

内 訳	・ 旅 費	14千円
	・ 需用費	30千円
	・ 役務費	3千円
	・ 委託料	2,816千円

(3) 秋田の食プロモーション事業 in タイ 2,711千円

内 訳	・ 報償費	30千円
	・ 旅 費	336千円
	・ 役務費	155千円
	・ 委託料	2,165千円
	・ 使用料及び賃借料	25千円

(4) 北東北三県・北海道ソウル事務所物産共同事業 1,213千円

内 訳	・ 旅 費	133千円
	・ 委託料	1,080千円

(5) 秋田県産品輸出事業 in 大連 7,843千円

内 訳	・ 報償費	20千円
	・ 旅 費	1,300千円
	・ 需用費	150千円
	・ 役務費	57千円
	・ 委託料	5,273千円
	・ 使用料及び賃借料	43千円
	・ 負担金補助及び交付金	1,000千円

発酵の国あきた魅力発信事業について【新規】
(地方創生推進交付金)

秋田うまいもの販売課

1 目 的

本県が誇る優れた発酵食文化をコンテンツとする「あきた発酵ツーリズム」を推進するため、受入環境の充実強化を図るとともに認知度向上のためのプロモーションを展開する。

2 概 要

(1) 発酵の郷づくり推進事業 5, 432千円

① 「あきた発酵ツーリズム推進協議会」開催事業 267千円

県内各地の発酵食文化の拠点施設について、認知度を高めるとともに、旅行商品の造成を促し、一層の誘客につなげていくため、旅行事業者等を集めた協議会を開催する。

② 発酵の郷づくり推進事業 5, 165千円

発酵食文化の拠点施設を中核として、地域をあげて発酵の郷づくりに取り組む団体等が行う誘客に向けたプロモーション活動や施設整備に対して支援する。

ア 拠点施設等整備費補助金

- ・補助対象者：施設見学や製造体験等のための小規模改修等を行う民間事業者
- ・採択施設数：1カ所
- ・補助率：1／2以内（補助上限2, 000千円）

イ 誘客促進費補助金

- ・補助対象者：観光協会、NPO法人等の民間事業者
- ・採択地区数：3地域
- ・補助率：1／2以内（補助上限1, 000千円）

(2) 発酵の国あきた誘客促進事業 7, 862千円

① メディアタイアップ誘客促進事業 5, 634千円

関東ローカルテレビ局とタイアップし、首都圏をターゲットに発酵ツーリズムのPR番組を制作・放映するとともに、視聴者を対象とした酒造り体験ツアー等を実施する。

② 首都圏等プロモーション事業 2, 228千円

京急百貨店で「あきた発酵フェア」を開催し、本県の発酵ツーリズムのPRと発酵食品、日本酒等の販売を行う。

(3) あきたの発酵食文化発信事業 3, 305千円

① あきた発酵マイスター情報発信事業 3, 205千円

発酵食に関する知識を習得する「あきた発酵カレッジ」を開講し、講座修了者を発酵食文化の情報発信を担う「あきた発酵マイスター」として認定する。

② 発酵食文化ミニツアーの実施 100千円

本県の発酵食文化に興味のあるクルーズ船客を対象に、拠点施設の見学とともに、発酵をテーマとしたランチを味わえるガイド付きの体験型ミニツアーを実施する。

3 予算額 16, 599千円

(1) 発酵の郷づくり推進事業 5, 432千円

内 訳	・ 報償費	120千円
	・ 旅 費	114千円
	・ 需用費	150千円
	・ 役務費	8千円
	・ 使用料及び賃借料	40千円
	・ 負担金補助及び交付金	5, 000千円

(2) 発酵の国あきた誘客促進事業 7, 862千円

内 訳	・ 報償費	120千円
	・ 旅 費	1, 203千円
	・ 需用費	80千円
	・ 役務費	174千円
	・ 委託料	6, 267千円
	・ 使用料及び賃借料	18千円

(3) あきたの発酵食文化発信事業 3, 305千円

内 訳	・ 旅 費	341千円
	・ 需用費	52千円
	・ 役務費	9千円
	・ 委託料	2, 880千円
	・ 使用料及び賃借料	23千円

あきた食品産業活性化対策事業について【新規】
(地方創生推進交付金・地域経済循環創造事業交付金)

秋田うまいもの販売課

1 目 的

県内食品事業者が行う新技術を活用した商品開発に必要となる設備の導入や、中食(弁当・惣菜)・外食市場への販路開拓に向けた取組を支援し、県内の食品製造業の活性化を図る。

2 概 要

(1) あきた食品産業活性化モデル育成事業 **25,600千円**

食品事業者が新技術や地域資源を活用し、新たな発想のもとに取り組む商品開発に対して必要となる初期投資費用について支援する。

併せて、協調融資を行う金融機関等と支援チームを設置し、原材料調達から販路開拓まで多方面にわたるフォローアップを行う。

(支援内容)

- ・採 択 件 数：1 件
- ・補 助 率：1／2 以内（地域経済循環創造事業交付金を活用）
- ・補助上限額：25,000 千円

(2) マーケットニーズ対応型商材販路開拓事業 **3,933千円**

消費者ニーズが高まっている中食・外食市場への販路開拓にチャレンジしようとする県内食品事業者と首都圏の中食・外食企業とのマッチング等を行う。

3 予算額 **29,533千円**

(1) あきた食品産業活性化モデル育成事業 **25,600千円**

内 訳	・ 報償費	12 千円
	・ 旅 費	342 千円
	・ 需用費	198 千円
	・ 役務費	36 千円
	・ 使用料及び賃借料	12 千円
	・ 負担金及び交付金	25,000 千円

(2) マーケットニーズ対応型商材販路開拓事業 **3,933千円**

内 訳	・ 旅 費	635 千円
	・ 需用費	160 千円
	・ 役務費	85 千円
	・ 委託料	3,025 千円
	・ 使用料及び賃借料	28 千円

奥羽・羽越新幹線整備促進事業について

交通政策課

1 目 的

昭和48年に国の基本計画に位置づけられた奥羽、羽越両新幹線の整備を促進するため、調査研究を行い、国やJRに対して提案を行うとともに、市町村や経済界等と一体となった広報活動などにより機運の醸成を図る。

2 概 要

(1) シンポジウム等の開催 672千円

県、市町村、経済団体等が官民一体となって整備促進に取り組む機運の醸成を図るため、シンポジウムや研修会を開催する。

(2) 要望活動の実施 360千円

国、JRへの要望活動を実施する。

(3) 関係6県合同プロジェクトチームによる検討 925千円

整備計画路線格上げに必要な国の調査実施を目指し、関係6県合同プロジェクトチーム(※参考参照)において、地域の将来ビジョン、沿線地域の実情に応じた整備手法、費用対効果の算出に関する調査・検討を実施する。

(4) 若者への啓発及び意見交換 404千円

新幹線の果たす役割と効果等について、県内大学生など未来を担う若者と意見交換を実施し、機運の醸成を図る。

(5) 啓発広報活動の実施 400千円

普及啓発のため、のぼり旗を作成し、県民運動としての機運の醸成を図る。

3 予算額 2,761千円

(1) シンポジウム等の開催 672千円

内 訳	・ 報償費	100千円
	・ 旅 費	70千円
	・ 需用費	190千円
	・ 役務費	12千円
	・ 使用料及び賃借料	300千円

(2) 要望活動の実施 360千円

内 訳	・ 旅 費	342千円
	・ 需用費	18千円

(3) 関係6県合同プロジェクトチームによる検討			925千円
内 訳	・旅 費 ・需用費 ・役務費	859千円 60千円 6千円	
(4) 若者への啓発及び意見交換			404千円
内 訳	・報償費 ・旅 費 ・需用費 ・役務費 ・使用料及び賃借料	100千円 83千円 146千円 15千円 60千円	
(5) 啓発広報活動の実施			400千円 (委託料)

【参 考】

関係6県合同プロジェクトチームについて

1 プロジェクトチームの概要

奥羽・羽越新幹線の早期実現に向け、国等に対する要望・提案を実効性あるものとするとともに、県民等の機運醸成に活用していくため、平成29年8月に沿線の関係6県によるプロジェクトチームを設置し、次の事項について調査・検討を実施。

<調査・検討事項>

- ・新幹線を活用した地域ビジョンの策定
- ・地域の実情に応じた整備手法の研究
- ・費用対効果の算出

<構成(関係6県)>

青森県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、富山県

2 各事項の検討内容

(1) 新幹線を活用した地域ビジョンの策定について

両新幹線がもたらす国土政策的な意義や、新幹線整備により実現する地域発展の将来展望・方向性等を示す。

<検討状況>

- ・沿線地域の基礎データ、各自治体の計画のほか、「国土強靱化計画」など国の既存計画等を踏まえ、観光、産業・経済、暮らし、都市機能・防災の各分野の将来展望について整理した。
- ・来年度は、将来的にリニア中央新幹線が三大都市圏を一体化させ、国土全体に大きなインパクトを及ぼすスーパー・メガリージョン（巨大経済圏）の形成を通じて両新幹線にもたらされる効果など、沿線地域の経済成長につながる国の動きを取り込みながら地域発展の方向性等について検討する。

(2) 地域の実情に応じた整備手法の研究について

建設コストの縮減などが期待される整備手法について検討する。

<検討状況>

- ・建設費の縮減や工期短縮が期待される整備手法について、既存の事例や研究段階の事例を幅広く調査し、その効果や課題を検討している。
- ・来年度は、効果の高い手法についてさらに研究を深め、可能なものは(3)の費用対効果の算出にも反映する。

<主な整備手法>

- ・構造物・・・高架に代えて地平での整備や盛土形式の区間を導入
- ・線路・・・行き違いが必要な区間以外に一部単線区間を設定
- ・車両・・・秋田新幹線のようなスリムな車両(2席+2席)を使用
- ・駅・・・荷重の小さい箇所に鉄骨等の建築部材を採用し構造をスリム化

(3) 費用対効果の算出について

両新幹線整備の投資効果を試算し、国に対して事業の有効性を示す。

<検討状況>

- ・費用対効果を算出するための推計モデルの確認作業、基礎データの収集・整理、予測年次や所要時間など試算に係る条件を設定した。
- ・現在、当初の見込みから1年半遅れ、昨年7月に公表された全国幹線旅客純流動調査(H27)の結果をもとに需要予測を実施中であり、来年度は、北陸や九州などの整備新幹線の整備費を参考としながら(2)の整備手法を適用する場合の費用削減効果や、地域ビジョンの実現による新規需要を反映した場合の効果を取り込んで、費用対効果の算出を進める。

秋田新幹線機能向上調査等事業について

交通政策課

1 目 的

J R 東日本の秋田新幹線トンネル整備構想について、関係機関との協議を継続的に実施するとともに、沿線自治体・経済団体と連携した機運醸成などにより、構想の早期実現を目指す。

2 概 要

(1) 国等との協議 1, 9 6 2 千円

構想の早期事業化に向けて、J R 東日本や国土交通省など国の関係機関との協議を行う。

(2) 啓発広報活動の実施 6 1 1 千円

経済波及効果分析等の調査結果を踏まえ、啓発用のリーフレット等を制作する。

(3) 要望活動の実施 8 9 1 千円

沿線自治体や経済団体で組織する地元期成同盟会とともに J R 東日本や国の関係省庁に対して要望活動を実施する。

- ・実施時期：年 5 回程度
- ・要 望 先：J R 東日本、国（国土交通省、財務省、総務省など）

(4) シンポジウムの開催 9 1 0 千円

県民等の機運醸成を図るため、地元期成同盟会等と連携してシンポジウムを開催する。

- ・実施時期：7 月頃
- ・実施場所：秋田市内または大仙市内

3 予算額 4, 3 7 4 千円

(1) 国等との協議 1, 9 6 2 千円

内 訳	・旅 費	1, 9 3 2 千円
	・需用費	3 0 千円

(2) 啓発広報活動の実施 6 1 1 千円 (委託料)

(3) 要望活動の実施		891千円
内 訳	・旅 費 855千円 ・需用費 36千円	

(4) シンポジウムの開催		910千円
内 訳	・報償費 100千円 ・旅 費 288千円 ・需用費 260千円 ・役務費 12千円 ・使用料及び賃借料 250千円	

1 目 的

地域住民の生活に必要なバス路線等を維持・確保するとともに、ＩＣＴ等の活用による新たな移動サービスの導入を促進することにより、人口減少社会においても持続可能な地域公共交通網の形成を図る。

2 概 要

(1) 地方バス路線維持事業 87,402千円

広域的・幹線的なバス路線を維持するため、バス事業者に対し、運行経費の一部を国と協調して補助する。

- ・補助対象：運行経費（20系統）、車両減価償却費（3両）
- ・補 助 率：国1／2（事業者への直接補助）、県1／2

(2) 生活バス路線等維持事業 182,784千円

地域内の生活交通を確保するため、市町村に対し、運行経費の一部を補助する。

① 生活バス路線等維持費補助 59,119千円

- ・補助対象：市町村が助成する生活バス路線（63系統）
- ・補 助 率：県1／2、3／8、1／8（乗車密度※により3段階に区分）

※ 起点から終点まで平均して乗客が何人いるかを算出した数値

② マイタウン・バス運行費等補助 68,903千円

- ・補助対象：市町村が運営するコミュニティバスや乗合タクシー等
（141系統）
- ・補 助 率：県1／2、1／4（乗車密度により2段階に区分）

③ 地域内フィーダー系統確保維持費補助 54,762千円

- ・補助対象：市町村が運営するコミュニティバス等で国の地域内フィーダー系統補助金の対象となっているもの（83系統）
- ・補助条件・額：運行経費の欠損額の1／2より国庫補助上限額が下回った場合にその差額を補助

(3) 新たなモビリティサービス導入支援事業【新規】 1, 681千円

MaaS※や自動運転など新たな移動サービスの導入による地域課題への対応について研究・検討を行うとともに、市町村や交通事業者の取組を支援する。

① MaaS導入基盤構築研究事業 681千円

将来のMaaS等導入に向けて、市町村や交通事業者が参集する研究会を開催し、事例研究や実施方法の検討等を行う。

② 新たなモビリティサービス導入促進事業費補助 1, 000千円

・補助対象：新たな移動サービスの導入に向けた取組を行う市町村及び交通事業者

・補助率：1／2

・限度額等：1, 000千円×1件

※ 複数の交通機関の検索・予約・決済を個人の端末から一括して提供するサービスの総称

3 予算額 271, 867千円

(1) 地方バス路線維持事業 87, 402千円

(負担金補助及び交付金)

(2) 生活バス路線等維持事業 182, 784千円

(負担金補助及び交付金)

(3) 新たなモビリティサービス導入支援事業 1, 681千円

内 訳	・ 報償費	28千円
	・ 旅 費	597千円
	・ 使用料及び賃借料	56千円
	・ 負担金補助及び交付金	1, 000千円

【参考】バス補助制度の概念図

交通政策課

運営主体	バス事業者		市町村	バス事業者・市町村
運行形態	乗合バス		コミュニティバス、乗合タクシー、自家用有償等	
補助制度 平均乗車密度	地方バス (＝地域間幹線系統)	生活バス	マイタウン・バス	地域内フィーダー系統
5人以上	国1/2 県1/2 (全額補填)	県1/2 市町村1/2	県1/2 市町村1/2	国&県1/2 市町村1/2
3人以上5人未満	国1/2 県1/2 (一部補填)	県3/8 市町村3/8		
1人以上3人未満 (市町村をまたぐ系統)		県1/8 市町村5/8		
1人以上3人未満 (市町村内完結系統)			市町村が独自に支援する場合あり	
1人未満				

秋田内陸縦貫鉄道関連予算について

交通政策課

1 目 的

秋田内陸線の安全運行と安定的な運営を支援するため、設備整備等に対して補助するとともに、利用促進に向けた取組を行う。

2 概 要

(1) 鉄道軌道輸送対策事業 291,923千円

鉄道の安全対策に係る設備整備等に対して補助する。

・設備投資：レール交換、枕木交換、ホーム改修等（国1／4※、県3／4）

※会社へ直接補助

・維持修繕：軌道整備、融雪装置修繕、車両検査等（県1／2、基金1／2）

(2) 第三セクター鉄道運営助成基金積立金 79千円

鉄道の維持確保及び経営基盤の安定化を図るため設置している基金に、基金運用益（受取利息）を積み立てる。

(3) 地方鉄道運営費補助事業 50,000千円

会社運営に必要な費用の一部を補助する。

・補助額：＜県＞0.5億円

＜北秋田市、仙北市、上小阿仁村＞計1.5億円

(4) 第三セクター鉄道利用促進事業 3,485千円

① 三セク鉄道利用促進事業 2,085千円

県市協働組織「秋田内陸活性化本部」を事務局とする「秋田内陸地域公共交通連携協議会」へ負担金を支出し、沿線でのイベント開催や首都圏等における誘客等の利用促進事業を実施する。

② 「秋田内陸線の旅」制作事業 1,400千円

内陸線沿線の観光・食・イベント情報等を掲載したパンフレットを、沿線市及び大館市、弘前市と連携して作成する。パンフレットはJR東日本と連携し、首都圏JR駅等に配置する。

3 予算額 345,487千円

(1) 鉄道軌道輸送対策事業 291,923千円 (負担金補助及び交付金)

(2) 第三セクター鉄道運営助成基金積立金 79千円 (積立金)

(3) 地方鉄道運営費補助事業 50,000千円 (負担金補助及び交付金)

(4) 第三セクター鉄道利用促進事業 3,485千円

内 訳

・旅 費	170千円
・負担金補助及び交付金	3,315千円

【参考】

秋田内陸縦貫鉄道の経営状況について

1 平成31年4月～令和元年11月までの輸送状況

(1) 輸送人員の状況（4月～11月比較）

(単位：人)

区 分	30年度	元年度	増減	備考
定 期	78,117	79,218	1,101	前年比 101.4%
定 期 外	105,487	112,768	7,281	〃 106.9%
合 計	183,604	191,986	8,382	〃 104.6%

(2) 鉄道収入の状況（4月～11月比較）

(単位：千円)

区 分	30年度	元年度	増減	備考
定 期	20,476	19,970	△ 506	前年比 97.5%
定 期 外※	75,103	77,244	2,141	〃 102.9%
合 計	95,579	97,214	1,635	〃 101.7%

※ 運輸雑収入を含む。

2 令和元年度決算見込み

鉄道収入が増加した一方で関連事業収入が減少し、経常損失額は前年度を上回る見込み。

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	増減	主な要因
収 入	鉄 道 収 入	131,002	135,404	4,402	
	定 期	25,854	25,441	△ 413	
	定 期 外 ※	105,148	109,963	4,815	団体利用の増
	関 連 事 業 収 入	61,697	52,619	△ 9,078	車内販売・カフェの減
	受 託 事 業 収 入	17,786	10,878	△ 6,908	観光アテンダントの減
	営 業 外 収 入	98,289	137,020	38,731	修繕費補助の増
	収 入 合 計 ①	308,774	335,921	27,147	
費 用	人 件 費	207,172	209,626	2,454	
	除 雪 費	14,041	14,000	△ 41	
	修 繕 費	117,098	157,297	40,199	補助対象修繕の増
	動 力 費	31,863	34,852	2,989	
	関 連 事 業 原 価	34,852	30,900	△ 3,952	
	受 託 事 業 費	17,587	9,874	△ 7,713	観光アテンダントの減
	そ の 他 経 費 等	75,629	74,982	△ 647	
	費 用 合 計 ②	498,242	531,531	33,289	
経常損益 ①－②		△ 189,468	△ 195,611	△ 6,143	

※ 運輸雑収入を含む。

由利高原鉄道関連予算について

交通政策課

1 目 的

鳥海山ろく線の安全運行と安定的な運営を支援するため、設備整備等に対して補助するとともに、利用促進に向けた取組を行う。

2 概 要

(1) 鉄道軌道輸送対策事業 71,875千円

鉄道の安全対策に係る設備整備等に対して補助する。

- ・設備投資：道床交換、枕木交換、橋梁補修設計等（国1／4※、県3／4）

※会社への直接補助

- ・維持修繕：踏切修繕、保守用車修繕、車両検査等（県1／2、基金1／2）

(2) 第三セクター鉄道運営助成基金積立金 27千円

鉄道の維持確保及び経営基盤の安定化を図るため設置している基金に、基金運用益（受取利息）を積み立てる。

(3) 地方鉄道運営費補助事業 18,000千円

会社運営に必要な費用の一部を補助する。

- ・補助額：＜県＞18,000千円

＜由利本荘市＞令和元年度経常損失額一県補助額

(4) 第三セクター鉄道利用促進事業 750千円

県、市及び会社が連携しながら首都圏等における誘客活動や情報発信を行うため、「鳥海山ろく線運営促進連絡協議会」へ負担金を支出する。

3 予算額 90,652千円

(1) 鉄道軌道輸送対策事業 71,875千円

(負担金補助及び交付金)

(2) 第三セクター鉄道運営助成基金積立金 27千円

(積立金)

(3) 地方鉄道運営費補助事業 18,000千円

(負担金補助及び交付金)

(4) 第三セクター鉄道利用促進事業 750千円

(負担金補助及び交付金)

【参考】

由利高原鉄道の鉄道事業の経営状況について

1 平成31年4月～令和元年11月までの輸送状況

(1) 輸送人員の状況（4月～11月比較）

(単位：人)

区 分	30年度	元年度	増減	備考
定 期	84,568	71,550	△ 13,018	前年比 84.6%
定 期 外	45,592	44,955	△ 637	〃 98.6%
合 計	130,160	116,505	△ 13,655	〃 89.5%

(2) 鉄道収入の状況（4月～11月比較）

(単位：千円)

区 分	30年度	元年度	増減	備考
定 期	16,445	13,655	△ 2,790	前年比 83.0%
定 期 外※	18,499	18,695	196	〃 101.1%
合 計	34,944	32,350	△ 2,594	〃 92.6%

※運輸雑収入を含む。

2 令和元年度決算見込み

関連事業収入等の減少により、経常損失額は前年度を上回る見込み。

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	増減	主な要因
収 入	鉄 道 収 入	45,611	42,871	△ 2,740	
	定 期	19,701	16,600	△ 3,101	
	定 期 外 ※	25,910	26,271	361	
	関 連 事 業 収 入	31,597	16,047	△ 15,550	企画旅行収入の減
	営 業 外 収 入	13,260	4,865	△ 8,395	工事管理費の減
	収 入 合 計 ①	90,468	63,783	△ 26,685	
費 用	人 件 費	106,121	97,956	△ 8,165	従業員数の減
	除 雪 費	956	630	△ 326	
	修 繕 費	5,047	5,595	548	
	動 力 費	10,312	9,778	△ 534	
	関 連 事 業 原 価	26,213	11,292	△ 14,921	企画旅行の減
	そ の 他 経 費 等	39,261	37,926	△ 1,335	
	費 用 合 計 ②	187,910	163,177	△ 24,733	
経常損益 ①－②		△ 97,442	△ 99,394	△ 1,952	

※運輸雑収入を含む。

秋田犬の里魅力アップ促進事業について
(地方創生推進交付金)

交通政策課

1 目 的

国内外で知名度の高い「秋田犬」を活用し、受入態勢の整備を進め交流人口の拡大を図るため、県内空港を利用する旅行商品の造成や秋田内陸線の観光列車の整備などを実施する。

2 概 要

(1) 秋田犬の里いらっしやいませ事業 **11,840千円**

航空会社のダイナミックパッケージを活用し、秋田空港圏域の観光情報をウェブサイト等で発信するほか、大館能代空港を利用する旅行商品の造成を支援し、両空港の利用を促進する。

また、フェリー秋田航路を活用した誘客を促進するため、県内公共交通機関の利用や観光地を巡る旅行商品造成の支援を行う。

- ・秋田空港ダイナミックパッケージ活用事業
- ・秋田犬の里大館能代空港旅行商品造成費等助成事業
- ・秋田港長距離フェリー旅行商品造成費等助成事業

(2) 秋田犬列車整備事業 **25,000千円**

秋田内陸線の車両について、秋田犬のデザインを採り入れた観光仕様に改修し、鉄道のイメージアップと外国人を含む観光客の利用拡大を図る。

- ・対象車両：1両
- ・内 容：車体改修（床板補修、屋根補修、ほか）
内 外 装（ラッピング、柱照明新設、ほか）
- ・補 助 率：10／10

3 予算額 **36,840千円**

(1) 秋田犬の里いらっしやいませ事業 **11,840千円**

内 訳	・旅 費	800千円
	・役務費	2,040千円
	・負担金補助及び交付金	9,000千円

(2) 秋田犬列車整備事業 **25,000千円**

(負担金補助及び交付金)

秋田の伝統芸能魅力発信事業について【新規】

文化振興課

1 目 的

多くの訪日客を迎える東京オリンピック・パラリンピックの開催年に当たり、本県が誇る伝統芸能等を県内外で披露するなど、秋田ならではの文化の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図る。

2 概 要

伝統行事「男鹿のナマハゲ」にスポットを当て、伝統芸能の祭典「あきた2020伝統芸能フェスティバル」を男鹿市で開催するとともに、「ナマハゲ行事」の由来や知識等を学び、祭りをつくり上げていく過程を体験する「お祭り体験ツアー」を実施するほか、県外で開催される東京オリ・パラ関連イベントに県内伝統芸能団体を派遣する。

- ・実施主体：県、男鹿市等で構成する実行委員会
- ・総事業費：29,054千円
- ・負担内訳：県12,278千円、国14,276千円、男鹿市1,500千円、協賛金等1,000千円
- ・実施内容：
 - ① あきた2020伝統芸能フェスティバルの開催
 - ・実施期間：令和2年10月上旬（土、日二日間）
 - ② お祭り体験ツアーの実施
 - ・実施期間：令和2年10月～令和3年2月
（10月伝統芸能フェスティバル、大晦日の年中行事、2月柴灯まつり等）
 - ③ 東京オリ・パラ関連イベントでの伝統芸能団体によるPR活動
（派遣予定のイベント）
 - ・「東京キャラバン2020」（令和2年5月に東京都内で開催予定）
 - ・「東京2020NIPPONフェスティバル」（令和2年5月に被災県で開催予定）

3 予算額

26,554千円
（負担金補助及び交付金）

あきた芸術劇場整備事業について

文化振興課

1 目 的

令和4年3月の開館を目指し、引き続き施設整備を進めるほか、附属駐車場敷地の埋蔵文化財調査を行う。

2 概 要

(1) 継続費分 (I) 661,050千円

平成29年12月補正予算で設定した継続費のうち、土地取得費、建物移転補償費に係る令和2年度実施分

- ・土地取得費（附属駐車場敷地） 84,238千円（市主体）
- ・建物移転補償費 576,812千円（市主体）

(2) 継続費分 (II) 6,190,570千円

平成30年9月補正予算で設定した継続費のうち、本体建設費、工事・設計監理費、ホール等施工支援業務費に係る令和2年度実施分

- ・本体建設費 5,988,937千円
- ・工事・設計監理費 81,039千円
- ・ホール等施工支援業務費 3,367千円
- ・埋蔵文化財調査費 113,420千円
- ・建築確認手数料等 3,807千円

(3) 単年度計上分

整備事務費 4,319千円

3 スケジュール

令和2年4月	和洋高校が校舎解体に着手
	校舎解体と並行して同敷地内の埋蔵文化財調査を実施
令和2年9月末	土地の引き渡し、土地代金の支払い、所有権移転登記

4 予算額 6,855,939千円

(1) 継続費分 (I) (II) 6,851,620千円

内 訳	・ 報 酬	4,054千円
	・ 職員手当等	724千円
	・ 共済費	878千円
	・ 報償費	64千円
	・ 旅 費	1,391千円
	・ 需用費	5,483千円
	・ 役務費	4,257千円
	・ 委託料	172,788千円
	・ 使用料及び賃借料	11,994千円
	・ 工事請負費	5,988,937千円
	・ 負担金補助及び交付金	661,050千円

(2) 単年度計上分 4,319千円

整備事務費

内 訳	・ 旅 費	2,139千円
	・ 需用費	1,835千円
	・ 役務費	306千円
	・ 使用料及び賃借料	26千円
	・ 負担金補助及び交付金	13千円

あきた芸術劇場開館準備事業について【新規】

文化振興課

1 目 的

令和4年3月の開館に向けて、開館1年前イベント等の実施により利用促進に係る県民・市民の機運醸成を図るとともに、施設予約システムの構築やプロモーターへの誘致活動など開館準備を行う。

2 概 要

(1) 開館に向けた機運醸成のための県民・市民参加事業 5,092千円

新たな施設を県内外に広く周知するため、PRイベントなど県民・市民参加事業を実施する。

- ・ 1年前PRイベント、仮囲いアート等、あきた芸術劇場開館記念PRE-EVENT2020の実施
- ・ 開館記念事業に向けた、県北・県央・県南の3地区におけるアウトリーチ事業の実施（プロの演奏家による中・高生吹奏楽部員向けの実演指導）

(2) 開館準備等事業 30,483千円

開館後の円滑な施設運営に向けて、指定管理者による運営体制の構築を図るほか、より県民に親しまれる施設になるよう公募により愛称を決定する。また、施設に配置する重要な舞台備品を選定する。

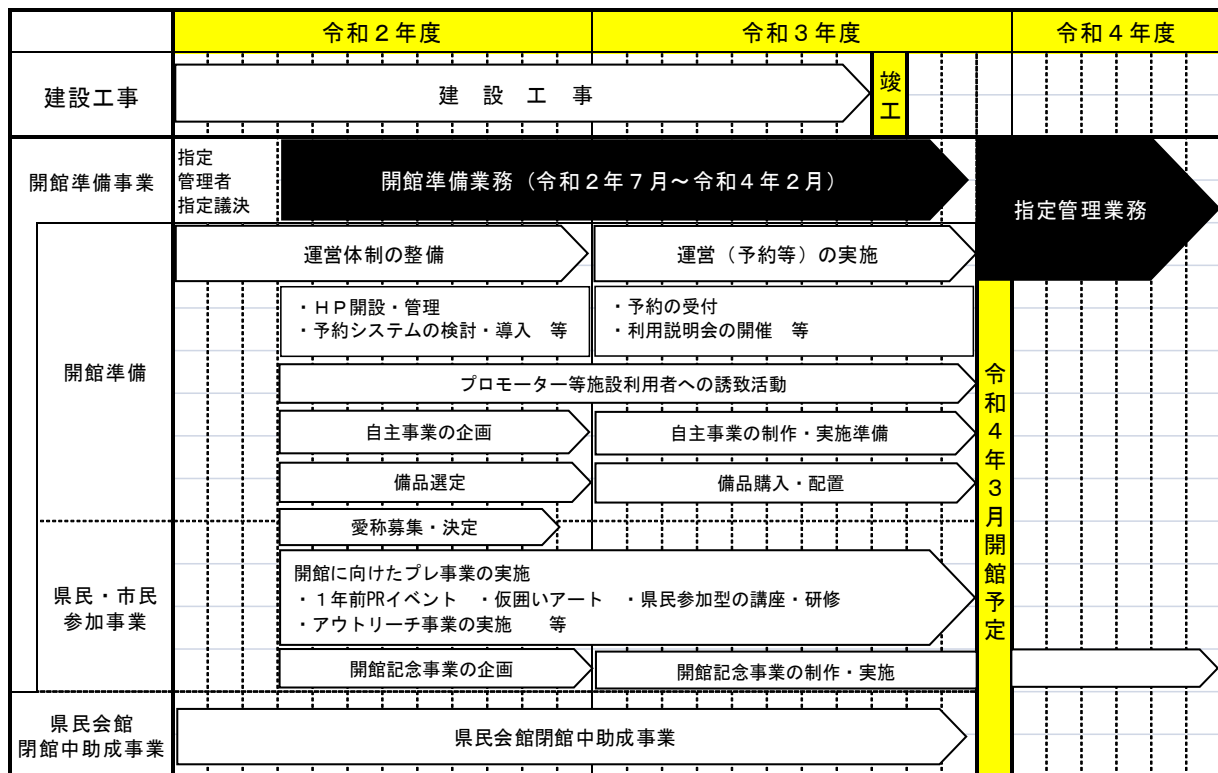
- ・ ウェブサイト開設、予約システムの構築、プロモーターへの誘致活動等の開設準備
- ・ ピアノ等舞台備品選定に係る文化団体等の意見聴取の実施
- ・ 愛称の公募及び選定委員会の開催 等

(3) 県民会館閉館中助成事業 500千円

県内文化団体等が、これまで県民会館大ホールで開催してきた芸術文化イベントを秋田市以外の文化施設で開催する場合に、掛かり増しとなる経費を対象に助成する。

- ・ 対 象 経 費：大会審査員の宿泊費や交通費、会場周知費用等
- ・ 補 助 率：10／10
- ・ 補助上限額：100千円

3 スケジュール



4 予算額

36,075千円

(1) 開館に向けた機運醸成のための県民・市民参加事業

5,092千円

内 訳	・旅 費	301千円
	・需用費	100千円
	・役務費	70千円
	・委託料	3,883千円
	・使用料及び賃借料	738千円

(2) 開館準備等事業

30,483千円

内 訳	・報償費	360千円
	・旅 費	347千円
	・需用費	349千円
	・役務費	88千円
	・委託料	29,313千円
	・使用料及び賃借料	26千円

(3) 県民会館閉館中助成事業

500千円

(負担金補助及び交付金)

スポーツ王国創成事業について

スポーツ振興課

1 目 的

「スポーツ立県あきた」の実現に向け、優れた素質を有するジュニア層の発掘に努め、一貫した強化を図るとともに、各競技団体が行う選手強化の取組を支援するほか、トップアスリートの県内就職を促進することなどにより、本県スポーツの競技力向上を図る。

2 概 要

- (1) スポーツ王国づくり強化事業 218,969千円
- ① 選手強化対策等への支援 106,995千円
競技団体が実施する選手強化対策事業に対して、国体得点獲得に重点を置いて補助する。
・補助対象競技団体：国体競技41団体（種目別延べ47団体）
- ② スポーツ医科学サポート 17,229千円
選手に対する医科学サポートを県スポーツ科学センターにおいて実施する。
- ③ 競技力向上対策の実施 93,885千円
選手の育成・強化のための諸施策や競技団体への指導など、県体育協会と連携した競技力向上対策等を実施する。
・委託及び補助先：(公財)秋田県体育協会
- ④ 強化策検討部会の開催【新規】 860千円
昨年の中皇杯順位を踏まえ、少年種別を中心に、これまでの強化策を見直すこととし、外部有識者を含めた部会で、今後の強化のあり方について検討する。
- (2) アスリート輩出のためのタレント発掘事業 8,346千円
- ① AKITAスーパーわか杉っ子発掘プロジェクト 6,956千円
ジュニア期から優れた素質を有する選手の発掘・育成・強化を実施する。
・対象競技：フェンシング、スピードスケート、ライフル射撃
- ② 秋田県タレント発掘合同トライアル 1,390千円
中学生を対象に測定会を実施し、本人の適性に合った競技種目を選択する際の判断材料を提供する。
- (3) ジュニアアスリート強化事業 54,241千円
- ① ジュニア期からの一貫指導体制の構築 24,841千円
県体育協会へのジュニア育成アドバイザーの配置（2名）や、各競技団体が実施するジュニア強化事業に対する補助（種目別延べ38団体）のほか、中学生強化指定選手に対する高等学校強化拠点校と連携した合同練習や研修を実施する。
- ② 高等学校強化拠点校への支援 29,400千円
高等学校強化拠点校を中心に、競技団体が主体となって実施する合同練習や遠征費などに対して補助する。
・高等学校強化拠点校：13競技延べ18校
- (4) アスリートの競技活動サポート事業 41,762千円
- ① アスリートと企業等のマッチングサポート 5,762千円
県内に就職し競技を続ける意思のあるアスリートと、企業等とのマッチングサポートを実施する。
・実施内容：無料職業紹介事業所及び就職推進アドバイザーの設置（1名）
アスリート就職説明会の開催など
・委 託 先：(公財)秋田県体育協会

- ② 秋田県トップアスリート正規雇用奨励金 6,000千円
 トップアスリートを雇用した企業等に対して、奨励金を支給する。
 ・支給額：2,000千円×3人
- ③ 秋田県トップアスリート競技活動サポート補助金 30,000千円
 企業等が負担するトップアスリートの競技活動経費を補助する。
 ・補助金額：年2,400千円（上限）
 ・対象者：14人

- (5) スポーツ国際交流員招致事業 8,273千円
 (語学指導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」対象事業)
 スポーツ国際交流員(SEA)を招致し、専門的な競技指導を行うとともに、スポーツを通じた国際交流を図る。

3 予算額 331,591千円
 (1) スポーツ王国づくり強化事業 218,969千円

内 訳	・報酬	4,969千円
	・職員手当等	552千円
	・共済費	925千円
	・報償費	3,920千円
	・旅費	5,123千円
	・需用費	352千円
	・役務費	1,553千円
	・委託料	90,385千円
	・使用料及び賃借料	652千円
	・備品購入費	39千円
	・負担金補助及び交付金	110,499千円

(2) アスリート輩出のためのタレント発掘事業 8,346千円

内 訳	・報償費	320千円
	・旅費	5,544千円
	・需用費	140千円
	・役務費	452千円
	・委託料	1,890千円

(3) ジュニアアスリート強化事業 54,241千円

内 訳	・委託料	10,382千円
	・負担金補助及び交付金	43,859千円

(4) アスリートの競技活動サポート事業 41,762千円

内 訳	・報償費	6,000千円
	・委託料	5,762千円
	・負担金補助及び交付金	30,000千円

(5) スポーツ国際交流員招致事業 8,273千円

内 訳	・報酬	5,744千円
	・職員手当等	214千円
	・共済費	974千円
	・旅費	1,182千円
	・役務費	15千円
	・負担金補助及び交付金	144千円

県有体育施設整備・改修事業について

スポーツ振興課

1 目 的

県有体育施設について、利用者の安全・安心を確保するとともに、各種競技大会の開催に支障がないよう施設設備の整備・改修を実施する。

2 概 要

- (1) 県有体育施設整備・改修事業 13, 117千円
- ① 武道館 冷温水発生機4号機修繕 7, 997千円
経年劣化により能力低下している冷暖房設備を改修する。
- ② 新屋運動広場 浄化槽制御装置外修繕 4, 291千円
経年劣化により漏電の危険があることから、トイレ浄化槽の制御盤を改修する。
- ③ 県立総合射撃場 エアーライフル射撃場エアコン設置 829千円
年々利用者が増加している総合射撃場について、夏場の利用環境を改善するため、エアーライフル射撃場にエアコンを設置する。
- (2) スポーツ振興くじ助成金活用事業 249, 891千円
- ① 鹿角トレーニングセンター ジャンプ台助走路改修事業 240, 130千円
気温上昇や直射日光による助走路の氷雪の融解を防ぎ、公平かつ安定した大会運営及び選手の安全面の向上を図るため、ジャンプ台助走路に助走レールを冷やす冷凍設備（クーリングシステム）を設置する。
- ② 鹿角トレーニングセンター 選手控え室改修事業 9, 761千円
ジャンプ台付近に選手控え室がないことにより発生していたスタート遅延等の競技運営上の支障を解消するため、既存管理棟を選手控え室としての改修に向けた実施設計等を行う。
- (3) 県有体育施設大規模改修事業 162, 894千円
- ① 県立スケート場 ホッケーリンク外改修工事 156, 478千円
破損しているホッケーリンク床の改修及び経年劣化している冷却配管の更新等を行う。
- ② 県立総合プール 大規模改修工事 実施設計業務 6, 416千円
経年劣化により、プールの諸設備の不具合が頻発していることから、各種大会や一般利用に支障が生じないよう、中央監視装置やろ過設備、循環水の昇温装置等を改修するための実施設計を行う。

3 予算額		425,902千円
(1) 県有体育施設整備・改修事業		13,117千円
内 訳	(・需用費 13,117千円)	
(2) スポーツ振興くじ助成金活用事業		249,891千円
内 訳	(・委託料 13,015千円 ・工事請負費 236,876千円)	
(3) 県有体育施設大規模改修事業		162,894千円
内 訳	(・委託料 6,416千円 ・工事請負費 156,478千円)	

2020プロジェクト推進事業について

スポーツ振興課

1 目 的

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿の受入れをはじめとする海外とのスポーツ交流を推進するとともに、県内で行われるトップスポーツ大会の開催を支援することにより、交流人口の拡大と競技力向上につなげる。

2 概 要

(1) 2020プロジェクトチーム活動費 40,948千円

県と連名でホストタウン登録している市町村と連携し、オリンピック・パラリンピックの事前合宿受入やスポーツ交流事業を実施する。

	相手国	競 技	実施予定事業
美郷町	タイ	バドミントン	事前合宿、スポーツ交流事業
横手市	インドネシア	バドミントン	青少年交流団受入
大館市	タイ	ボッチャ・パラ陸上	事前合宿、スポーツ交流事業
仙北市	タイ	車いすバスケット	交流合宿
大潟村	デンマーク	ボート	事前合宿、コースブイ設置撤去

(2) オリンピック・ムーブメント啓発事業 7,368千円

① オリンピック教室開催費 1,368千円

JOCパートナー協定に基づき、県内の中学校にオリンピックを派遣し、2年生を対象にオリンピック教室を開催する。

② トップスポーツ大会開催支援事業 6,000千円

交流人口の拡大や競技力向上に資する国内トップレベルの選手が参加するスポーツ大会の開催を支援する。

3 予算額 48,316千円

(1) 2020プロジェクトチーム活動費 40,948千円

内 訳	・旅 費	1,767千円
	・需用費	880千円
	・役務費	66千円
	・使用料	336千円
	・負担金補助及び交付金	37,899千円

(2) オリンピック・ムーブメント啓発事業 7,368千円

内 訳	・報償費	700千円
	・旅 費	668千円
	・負担金補助及び交付金	6,000千円

東京2020オリンピック聖火リレー開催事業について

スポーツ振興課

1 目 的

東京2020オリンピックの聖火リレー及びパラリンピック聖火フェスティバルを県内で実施し、県民のオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、機運醸成を図るとともに、世界から注目される聖火リレーの開催を県内の観光地や歴史・文化等をPRする絶好の機会と捉え、国内外に向けて本県の魅力を発信する。

2 概 要

(1) オリンピック聖火リレー

- ・実 施 日：令和2年6月9日（火）～6月10日（水）
- ・通過市町村：1日目 湯沢市、横手市、由利本荘市、美郷町、大仙市、
仙北市、秋田市
：2日目 潟上市、八郎潟町、大潟村、能代市、大館市、
男鹿市、鹿角市
- ・区 間 数：171区間
- ・ランナー数：秋田県実行委員会推薦分 53人

(2) パラリンピック聖火フェスティバル

県内25市町村において採火された火を集めて秋田県の聖火とする「集火式」と、県の聖火を東京都へ送る「出立式」を行う。

- ・実 施 日：令和2年8月17日（月）
- ・実施場所：秋田市内

3 予算額

142,651千円
(負担金補助及び交付金)

【参考】

「東京2020大会聖火リレー秋田県実行委員会」予算額		174,356千円
<収入>	県負担金	142,651千円
	市町村負担金	31,705千円
<支出>	聖火リレー運営費	104,072千円
	(走行路・雑踏警備、交通規制、ランナー管理など)	
	セレモニー運営費	34,623千円
	(出発式、聖火フェスティバルなど)	
事業推進費		35,661千円
(事前広報、全体オペレーション、事務管理など)		

スポーツ振興課

併せて、第76回大会に続き2年連続10回目の開催となる、第77回大会に向けた準備も行う。

全国から選手・監督など4千人が参加して行われるスキー競技が円滑に実施できるよう、開催地である鹿角市や県スキー連盟等、関係機関との連携により、大会を開催する。

- ・大会名：第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会
- ・会期：令和3年2月18日（木）～21日（日）（4日間）
- ・開催地：鹿角市・花輪スキー場
- ・開催競技：①アルペン競技
②ノルディック競技
- ・ジャイアントスラローム
- ・スペシャルジャンプ
- ・コンバインド
- ・クロスカントリー
- ・実施主体：（公財）日本スポーツ協会、文部科学省、秋田県、
（公財）全日本スキー連盟、鹿角市

15,576千円

内 訳	・旅費	2, 8 9 6 千円
	・需用費	4, 2 2 8 千円
	・役務費	1, 0 8 7 千円
	・委託料	6, 3 9 0 千円
	・使用料及び賃借料	9 7 5 千円

(負担金補助及び交付金)

660千円

内 訳	・ 報償費	6 0 千円
	・ 需用費	3 0 1 千円
	・ 役務費	2 9 9 千円

第28回日・韓・中ジュニア交流競技会開催事業について【新規】

スポーツ振興課

1 目 的

日本・韓国・中国それぞれの代表選手と本県選抜の高校生アスリートが、11競技で競うスポーツ大会を開催することにより、本県高校生の競技力向上と国際理解・国際交流を図る。

2 概 要

平成5年（1993年）から日本・韓国・中国による持ち回りで開催されている大規模な国際競技会であり、日本では10回目、本県では初開催となる。

【大会概要】

- ・大会名：第28回日・韓・中ジュニア交流競技会秋田大会
- ・会期：令和2年8月23日（日）～29日（土）（7日間）
- ・主催者：（公財）日本スポーツ協会、秋田県、秋田県教育委員会、
（公財）秋田県体育協会、中央競技団体（11競技）、
- ・参加チーム：日本、韓国、中国、秋田県
- ・参加予定人数：各チーム247名（合計988名）
- ・出場者：所属チームの国籍を有する18歳以下の選手
- ・開催地：秋田市、湯沢市、由利本荘市、三種町
- ・開催競技等：

	実施競技	開催地	競技会場
1	陸上競技	秋田市	県立中央公園陸上競技場
2	サッカー	秋田市	ソユースタジアム
3	テニス	秋田市	県立中央公園テニスコート
4	バレーボール	秋田市	県立体育館
5	バスケットボール	由利本荘市	ナイスアリーナ
6	ウェイトリフティング	三種町	三種町琴丘総合体育館
7	ハンドボール	湯沢市	湯沢市総合体育館
8	ソフトテニス	秋田市	北野田公園テニスコート
9	卓球	由利本荘市	由利本荘市総合体育館
10	バドミントン	秋田市	CNAアリーナあきた
11	ラグビーフットボール	秋田市	あぎぎんスタジアム

3 予算額

16,606千円

内 訳	・旅費	156千円
	・負担金補助及び交付金	16,450千円

【参考】第28回日・韓・中ジュニア交流競技会秋田大会実行委員会収支計画

1 収 入

項 目	金 額
(公財) 日本スポーツ協会委託金	114,970千円
県負担金	16,450千円
総 額	131,420千円

※大会運営全般と3カ国(日本・韓国・中国)代表チームに係る経費は、
(公財)日本スポーツ協会が負担。県選抜チームに係る経費は、県が
負担。

2 支 出

項 目	金 額
謝 金(医師、看護師、通訳等)	7,837千円
滞 在 費(韓国・中国選手団宿泊費)	29,640千円
旅 費(日本・秋田県選手団宿泊費等)	36,101千円
賃 借 料(輸送バス、競技会場借上料等)	41,476千円
通信運搬費(郵送代、競技用具輸送料等)	352千円
会 議 費(会議諸経費)	80千円
印刷製本費(プログラム、ポスター等)	1,709千円
消 耗 品 費(競技運営用消耗品等)	11,034千円
雑 役 務 費(看板作成料、保険料等)	3,129千円
予 備 費	62千円
総 額	131,420千円